授業を見学してA

＜漢字＞

・学生から発言するように促している
・説明するだけでなく例文をいくつか提示
・指導する先生によって教え方が異なる

＜文法＞

・見学した課にもよると思うがレアリアの使用が少ない
・学生にとって身近な例文を提示
・指示をしっかり出していた
・文を読むだけでなく表情でも表現していた

教壇実習A（漢字）
『日本語能力試験に出る漢字2級』

<授業で何を目指したか>

・学習した漢字の意味を理解し、読めるようになることを目指した。

<授業の準備で注意・努力したこと>

・説明に使用することばは既習のものを使用。

・説明しなくても理解していることばがあった場合、学生から発言してもらえるよう会話のきっかけとして使用した。

<実際にやってみて分かったこと>

・まずは学習者に聞いてみて良い答えが出たら余計な説明はしない。補足程度。

・説明するだけでなく、黒板に図を描いたり、イラストで理解してもらうのも手。

・ことばの意味を理解していても文全体の意味になると理解できていない時があるので、文全体の意味も確認する。

教壇実習A（文法）
『みんなの日本語Ⅱ』第45課
「～のに」

<授業で何を目指したか>

・その文法を正しい状況で使用できる。

・学習した文法を使用して、文が作れる。

<授業の準備で注意・努力したこと>

・例文を提示する際、学生にとって分かりやすいものにする。

・文を作れるだけでなく、どのような時使用するか表情や体の動きでも表現する

<実際にやってみて分かったこと>

・説明するだけでなく、学生自ら体を動かしたり考えるほうが積極的に取り組んでくれた。
・教案通り授業を進めるより、教案から少しずれたとしても学生の発言を拾いながら進めた方がよい。
・準備していなかった質問がきても、学生が何を質問しているのかをしっかり聞き、焦らない。
・文法を使った文を作ってもらい、その答え合わせを行う際には助詞等の細かい点に気を付ける。

<教壇にたって心に残ったこと>

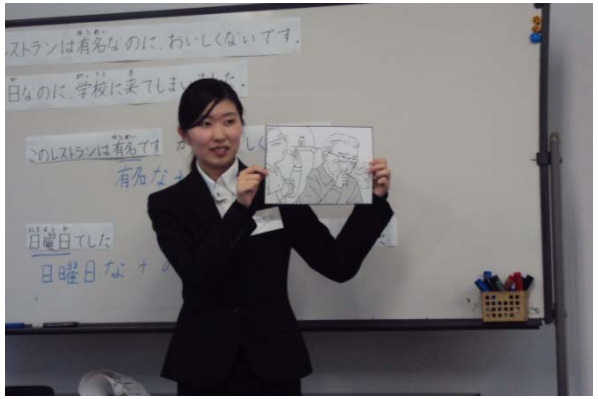
・理解出来ているのか出来ていないのか初めは見極めが難しいが、本当に分かった時の表情が嬉しい。

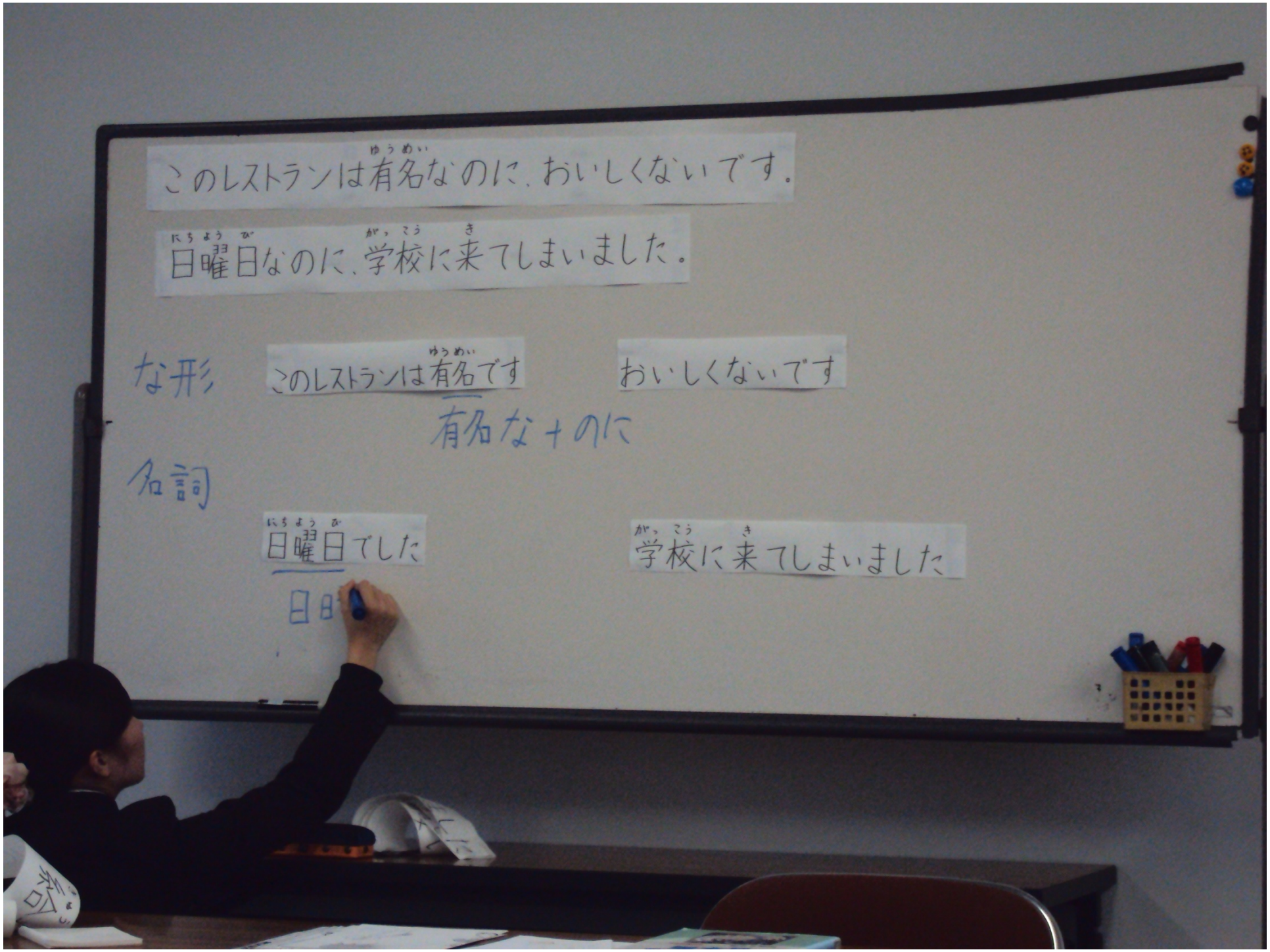
<よい日本語教師になるためには>

・授業の準備を怠らない。

・用意したものをすべて説明するのではなく、学習者から引き出す。

・学習者主体の授業を心がける。




このレストランは有名なのに、おいしくないです。
日曜日なのに、学校に来てしまいました。
な形
このレストランは有名です
おいしくないです
有名な+のに
名詞
日曜日でした
学校に来てしまいました

授業見学B（漢字）

・漢字の授業は学生のとって苦痛でしかない。
→漢字の授業を楽しいと感じたことはない

・漢字の書き順指導だけでなく、単語の意味を説明したり、反意語や類義語も教えていた。

・漢字が書け、読めていても正しい読み仮名を書けないことが多い。

授業見学B（文法）

・学生が間違って書いたものも消さない。

・なぜこの文型を覚えるのか、どのような時に使うのかを示すことによって授業の取り組みが変わる。

・説明ではなく、まずは教師が使ってみる。

・絵や写真などを使うと理解が早い。

教壇実習B（漢字）
『日本語能力試験に出る漢字2級』第3回①

＜授業で何を目指したか＞

・今回習った漢字を使って日常的に会話ができるレベルを目指した。

・漢字の授業というよりも語彙の補足を主とした。

＜授業の準備で注意・努力したこと＞

・類義語、同意語も一緒に教える。

・書き順と意味を事前に確認し、例文も考えておく。

・レアリアや絵を用意し、言葉だけの説明にならないように気をつけた。

・ゲームをしながら漢字が学べるようにした。

＜実際にやって分かったこと＞

・今から何の説明をするのか言ってから説明を始める必要があった。

・学生が分からないと思ったら、形をかえて聞いてみるといい。

・辞書的な意味の説明だけでなく、どのように使うのか文にして単語を使ってみせるといい。

・学生が日常生活でしそうなことから例を出す。

・学生が分かっていると思っても一回ごとに確認していくことが大切。

・漢字の意味を理解しているかの確認は文章を作らせるとよく分かる。

教壇実習B（文法）
『みんなの日本語Ⅱ』第46課
「～ところです。」

＜授業で何を目指したか＞

・「～ところです。」には3つの用法があるので、3つの用法の違いとどのような状況の時にこの用法を使うのかをつかめるようになる。

＜授業の準備で注意・努力したこと＞

・「～ところです」を使う状況をとらえるためにロールプレイを多く取り入れた。

・教科書の欠点を見つけ、よりリアリティーのある授業をするように努力した。

＜実際にやって分かったこと＞

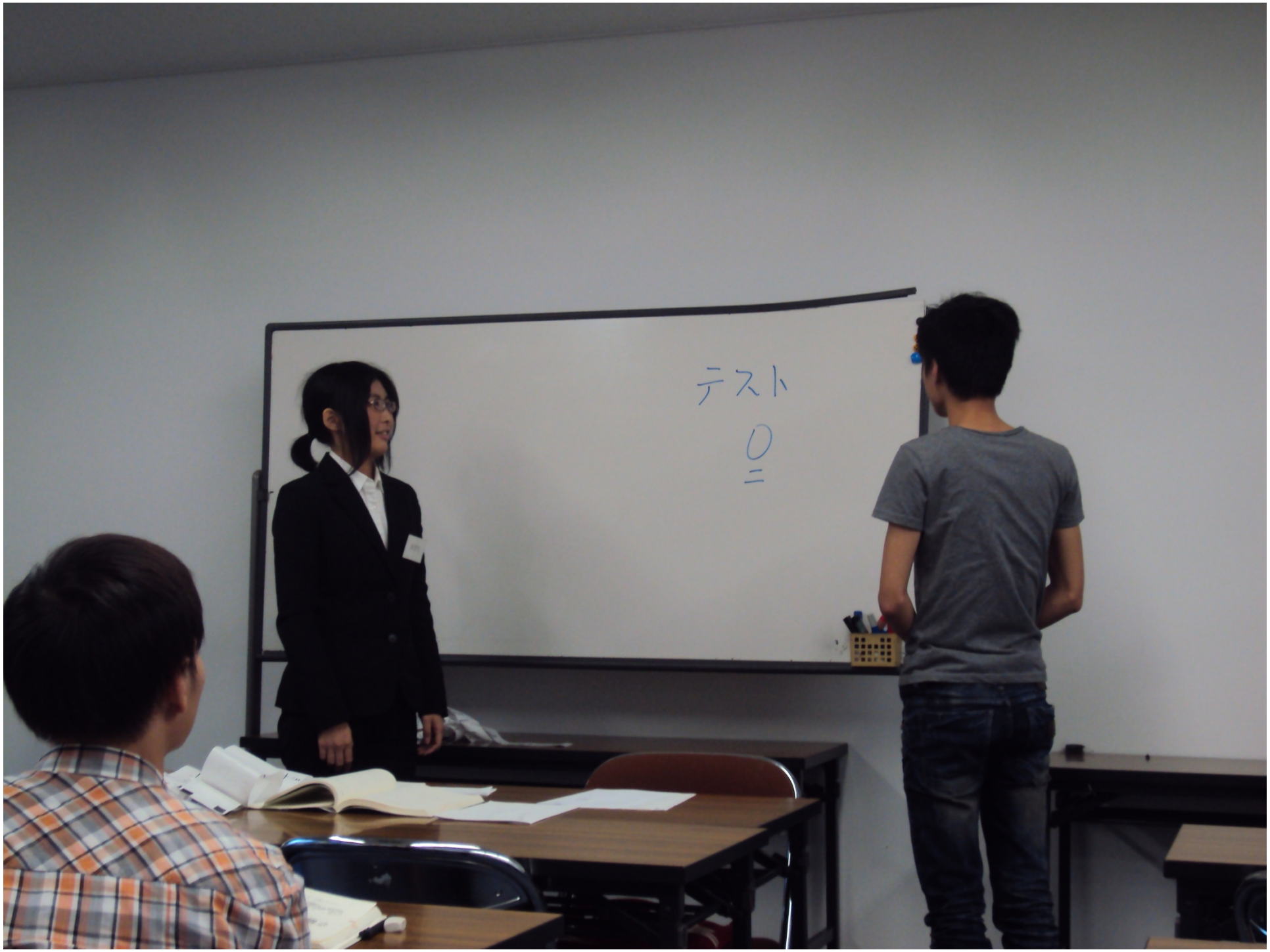
・学生の間違いをすぐに正すのではなく、何が違ったのか学生に考えさせることが必要だった。

・教師が話す時間を減らし、学生に話させる時間を多くする。

・学生からされそうな質問を予測し、いつでも答えられる準備をしておくとよい。

・時間があまった時に何をしておくかも考え、プリントなどの準備もしておく。

・指導書を参考に授業を考えるのではなく、自分が学生に何を身に付けてもらいたいかを考えて授業を考えることが大切。


テスト
0
=

＜教壇に立って心に残ったこと＞

・教師も人間だから焦ることも自信がないこともある。けれど、いかに焦りを隠すか、自信があるようにみせるかが大切。

＜よい日本語教師になるために＞

・自分が悩んだ分だけ、学生は応えてくれる。授業一つ一つにこだわりを持ち、絶対に妥協はしない。教師として学生に何を身に付けさせたいかを一番に考え、よりリアルな日本語を教えたいと思った。

教科書をなぞるだけの授業ではなく、言葉の裏に隠された日本人ならではの感情を教える努力をすることも必要。

授業見学C

＜漢字＞

・単語の意味だけでなく、文全体の意味も確認させている。

・辞書的な意味を説明するのではなく、例などを示している。

・単調な授業になりがち。

・ベトナムの学生は苦戦気味。

＜文法＞

・例文を示しながら、説明。

・先生によって授業のやり方は違うが、一通りの形はあるようだった。

・教案は流れだけつくっている。

教壇実習C（漢字）
『日本語能力試験に出る漢字2級』第4回-②

〈授業で何を目指したか〉

・その漢字が読めて、その単語の意味が大体わかるようになる。

・説明だけでなく、学生から発言させるようにする。

〈授業の準備で注意・努力したこと〉

・分かりやすい言葉で、一方的に説明するのではなく気づかせるようにする。

・例文を出すようにする。

〈実際にやってみて分かったこと〉

- いい質問があった時はそこから広げてみる。
- 先にあてるのではなく、全体に聞いてからのほうが学生も発言しやすくなる。
- 理解できていない場合は、言い方を変えてみる。
- 説明はシンプルに。
- 分からないときは分からないと言っていい。
- 聞き方にも注意。

教壇実習C（文法）
『みんなの日本語Ⅱ』第44課「～します」

〈授業で何を目指したか〉

・習った形で文が作れる。またそれを言える。
・「～します」をどの場面で使うのか分かる。

〈授業の準備で注意・努力したこと〉

・分かりやすい言葉で、一方的に説明するのではなく気づかせるようにする。
・例文を出すようにする。
・絵カードや写真で視覚的に分かりやすくした。

〈実際にやってみて分かったこと〉

- 本当に理解できているか判断がつかないので、学生に何度も確認してみる。
- 学生に聞かれたことが分からない場合は、その場で焦って出した考えは述べない。
- 答えを学生側から出したときは大げさに褒める。
- 誤っているところはその場で訂正する。おかしい時はおかしいと言う。
- 例文がおかしくないか確認すること。

＜心に残ったこと＞

今まで模擬授業を行ってきたが、実習では型どおりの授業ではなくてもいいというのが印象的だった。学生とやりとりしていくなかで、反応が返ってきたり、理解してくれていると感じたりすることは実際に教壇に立たないと分からなかったと思う。同時に、人に教えることの大変さや責任の重さを改めて学べた。

＜よい日本語教師になるために＞

まず学生とコミュニケーションをとれることが大事だと思う。授業だけでなく、普段からの声がけが必要。また、自分が作った授業を正確に行うのではなく、その場にあわせて臨機応変に対応できることだが必要だと思う。学生目線を忘れない。